

松戸・鎌ヶ谷地区 キャップハンディオリエンテーリング

令和元年10月20日(日)、松戸・鎌ヶ谷地区主催で「キャップハンディオリエンテーリング」を開催しました。

キャップハンディ活動は、障がいのある方々を理解し、相手の立場に立って考え、寄り添っていこうという気持ちを育てることをねらいにしています。

アイマスクを着用して買い物に出かけたり、手話で好きな物を教えあったり、高齢者装具（視野が狭くなる眼鏡や重りの入ったベストなど）を身に着け歩くなどの体験をしてもらいました。安心して暮らせる地域の環境づくりに役立つことができればと思います。

松戸第8団 カブ隊 紅田 すみれ

障がいのある人の気持ちがよくわかったし、たくさん
の知識が増えてよかった。今日習った手話であい
さつをたくさんしてみたい。

松戸第8団 カブ隊 たかはし ふうか

車いすたいけんは、いままでのたいけんは少ない
が、車いすの人はとてもたいへんことがわかった。
手話をこれからもつづけたい。

松戸第8団 カブ隊 細田 理桜

障がい者の気持ちになってとても楽しかったで
す。耳のきこえない人にせっきよく的に手話で声を
かける。

松戸第8団 カブ隊 細田 悠磨

障がい者のきもちになれてよかった。障がい者に
手話や空もじではなしてみたい。

松戸第8団 カブ隊 原田 ゆめ

耳が聞こえない人や、目が見えない人はまい日た
いへんということがわかった。
おうちのお手つだいやかそくが助かるようなこと
をしていきたい。
今日、学んだことで手話など、しょうがいについて
よく知れた。



松戸第8団 カブ隊 上岡 京郎

アグーナリーという大会があると知っておもしろかった。車いすで、町を回りたい。

松戸第8団 カブ隊 青戸 康汰

全部楽しかった。

松戸第8団 ボーイ隊 松宮 あいこ

アイマスクを着けて買い物に行くと目が見えない人の気持ちがわかった。手話を学んだので忘れないようにして今後に生かしていきたい。

松戸第8団 ベンチャー隊 中村 陽平

自分は身体的不自由なく過ごしているため、今回の活動はとても勉強になりました。色々な方々は、普段の暮らしでも大変な苦勞をされている事が少しわかった気がします。やはり、一人よりも誰かサポートする人がいてくれた方がとても楽しいですし、もし困っている人がいたら積極的に手助けしていきたいと思います。

松戸第8団 ボーイ隊 秋山 剛輝

いろんな不自由の体験をして大変なことがあってもペアの人の指示で分かりやすかったです。

松戸第8団 ボーイ隊 中村 昇平

白杖の体験で点字ブロックが無い場所で、ヘルパーさんに助けってもらって、もしいかなかったらどっちに行ったらよいか分からず、とても困ったと思い、点字ブロックなどをこれからも増やした方がいいと思いました。

松戸第8団 ボーイ隊 高橋 謙介

アイマスクをして外へ出て買い物をするとき、めちゃくちゃ緊張しました。買い物を終えた後、達成感を感じた。もしも、電車の中で目の見えない人がいたら、助けてあげたいと思いました。



松戸第8団 ボーイ隊 小林 稔久

改めて障がい者の方々がすごい苦勞をして、一日一日を生きている事を実感した。視覚障がい者の人の体験をして、方向感覚もわからないし、どんな空間かもわからないので、視覚障がい者の人の苦勞がわかった。自分が日常生活で困っている方を見かけたら積極的に手助けをしていきたい。

松戸第8団 ボーイ隊 後藤 優歩

僕はこの活動を通して視覚障がい、聴覚障がい、言語障がいの方々がどれだけ苦勞しているのかわかった。ヘルプガードや白杖を持っている人がいたら、助けようと思う。

松戸第7団 カブ隊 泉 紗南

点字、目が見えない人、車いすなどの体験をやって、いろいろなことがわかりました。手話はあいさつの言葉やすきな食べ物などの手話を教わりました。目が見えない人にはやさしくしたい。わたしが目が見えなくなったら、点字をがんばっておぼえる。こまっいていい人には助けてあげるようにしたい。

松戸第7団 カブ隊 阿部 ほか

みんなとふれあえてたのしかった。白杖はとてもこわかったです。こまっいてる人がいたらつだってあげたいです。

松戸第7団 カブ隊 坂下 友花

自分が目がみえなくなっても、毎日車いすにのるとしても、今日学んだことを生かしてみたいです。なんとなく体験して楽しかったです。目の見えない人ご困っていたら声をかけて助けてあげたい。

松戸第7団 ボーイ隊 石渡 悠真

障がい者はいろんな工夫をしているんだなと思いました。

松戸第7団 ボーイ隊 泉 碧斗

普段できない体験ができて良かったです。日常生活の様々なところで大変な事がたくさんあるんだなと思いました。



松戸第7団 ボーイ隊 伊藤 綾音

車いすに実際に座ってみたり、押したりしてみても、自分がもし体が不自由になった時があったら、歩いたり、普段の生活をする事ができなくなるから、その時は車いすを使うかもしれないから、今回体験してみても良かった。駅やいろんな場所において視覚障がいなど病気を持っている人がいたら、自分から「大丈夫ですか？」など、気軽に声をかけて助けてあげたいです。

松戸第7団 ベンチャー隊 石渡 寛人

手話で自分の名前を教えてもらえて、嬉しかったです。寛人に車いすを押しってもらうのがこわかったです。(スピードがありカーブを曲がる時何も注意しないため)

柏第1団 ボーイ隊 瀬谷 航大

手話はおぼえるのが多くて、手話がさらさらつかうのでかんしんしました。こうれいきぐをきて、すこしうごきにくいとかんじました。車いすのときは、すこしなららぐだったので、ながくすわると考えるとつらいと思いました。目が見えないと、自分がいまだどこにいるのかわからなくなるほどたいへんでした。車いすの時、車にのるまでたいけんしたのですが、車いすにのるのにたいへん力があるのだとおもいました。目が見えないと、いまだどうしようひんをもっているのかがわかりませんでした。



柏第1団 カブ隊 橋口

いろんなことが学べて、やれたのでたのしかった。

柏第1団 カブ隊

車いすにのっているのがたのしかった。車いすをつかったスポーツをやってみたい。手話がむずかしくておぼえられなかったです。

柏第1団 ボーイ隊 盛田 悠月

障がい者やお年寄りのつらさを体感したらつかれた。だから、介護したらより障がい者などが楽しくなると思う。

柏第1団 ボーイ隊 赤はに 友あき

障がい者の人とも平等にせっしたい。ハンディキャップのある人はとても大変だということがわかった。もっと手話を覚えたいです。

柏第1団 ボーイ隊 瀬谷 拓夢

いろいろと大変でした。自分自身で体験することができた。

市原第3団 ベンチャー隊 田口 未悠

キャップハンディオリエンテーリングに参加して

今回初めて、松戸・鎌ヶ谷地区主催のキャップハンディオリエンテーリングへ参加しました。私の所属する上総地区以外のスカウトと触れ合う機会を得てとても良い経験になりました。健常者と障がいを持った方、お互いがお互いを理解することは、本当に難しいことだと思います。私はこの活動を得て思えたことは、障がいを持った方々は本当に強い心で日々生きておられ、様々な困難を乗り越えていると深く感動致しました。私自身このような交流の機会がなければ、障がいを持った方の気持ちはきっとわからなかったと思います。

体験してみてこそ、初めて分かる相手の気持ち。新しく松戸第七団のお友達にも出会えて本当に参加してよかったです。貴重な機会を作ってくださった千葉県連盟 松戸鎌ヶ谷地区の皆さんに感謝です。来年の第13回日本アグーナリーでは本部スタッフのユニファイドサービスセンターの要員として参加させていただきたいと思います。今からとても楽しみです。本当にありがとうございました。

東金第1団ベンチャー隊 宮本 晶

キャップハンディオリエンテーリングに参加して

来年行われる第13回日本アグーナリーに向けて、このキャップハンディオリエンテーリングに参加させていただきました。

体が不自由な方を想定した体験が多く、自分自身がそうだった時どのようなことをしてもらえると嬉しいか、どのようなことが困るのか身をもって体験しました。文章だけでは伝わらない怖さや不便さが、数分体験しただけで分かりました。それでも前向きにその怖さや不便さ伝えてくれる方々にとても温かみを感じました。

日本では心身に問題を抱える人々を障がい者と呼びますが、近年海外ではチャレジド（困難に挑戦する人）やディファレントリー・エイブルド（異なった能力を持つ）などと表現されているそうです。表記をかえたところで見られ方が変わるわけではありませんが、まず私たちから捉え方を変えて、そんな人達の